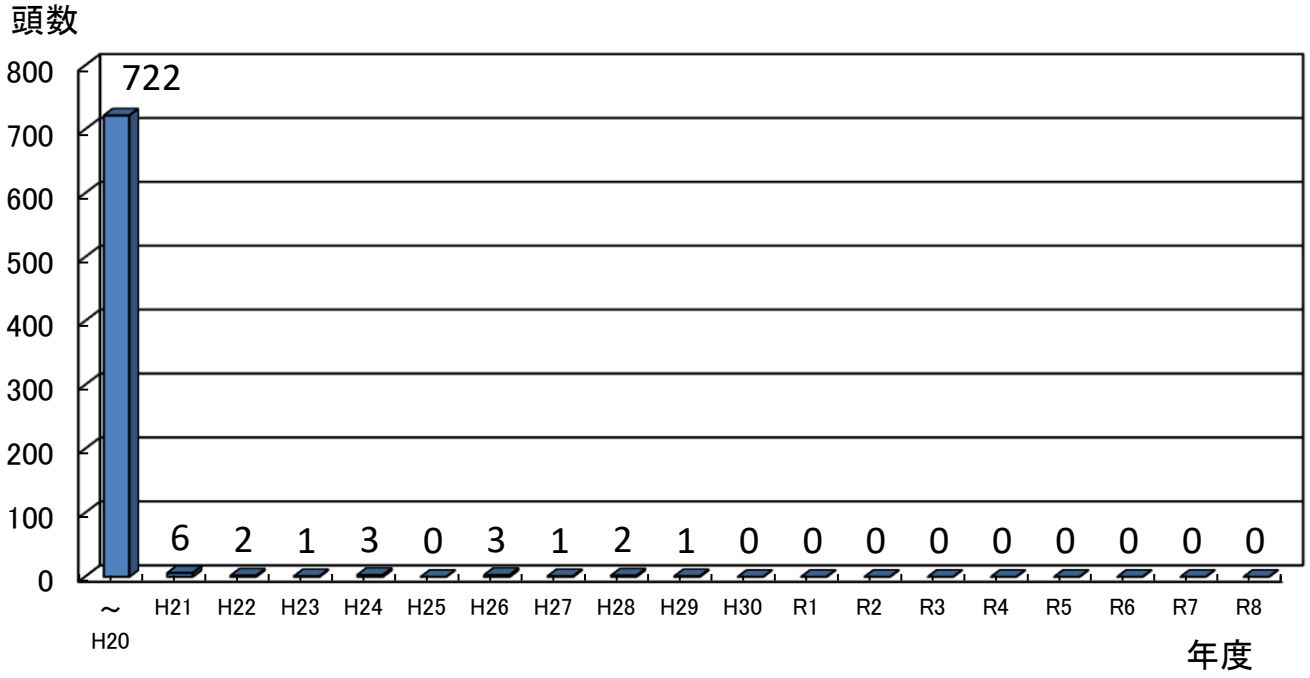
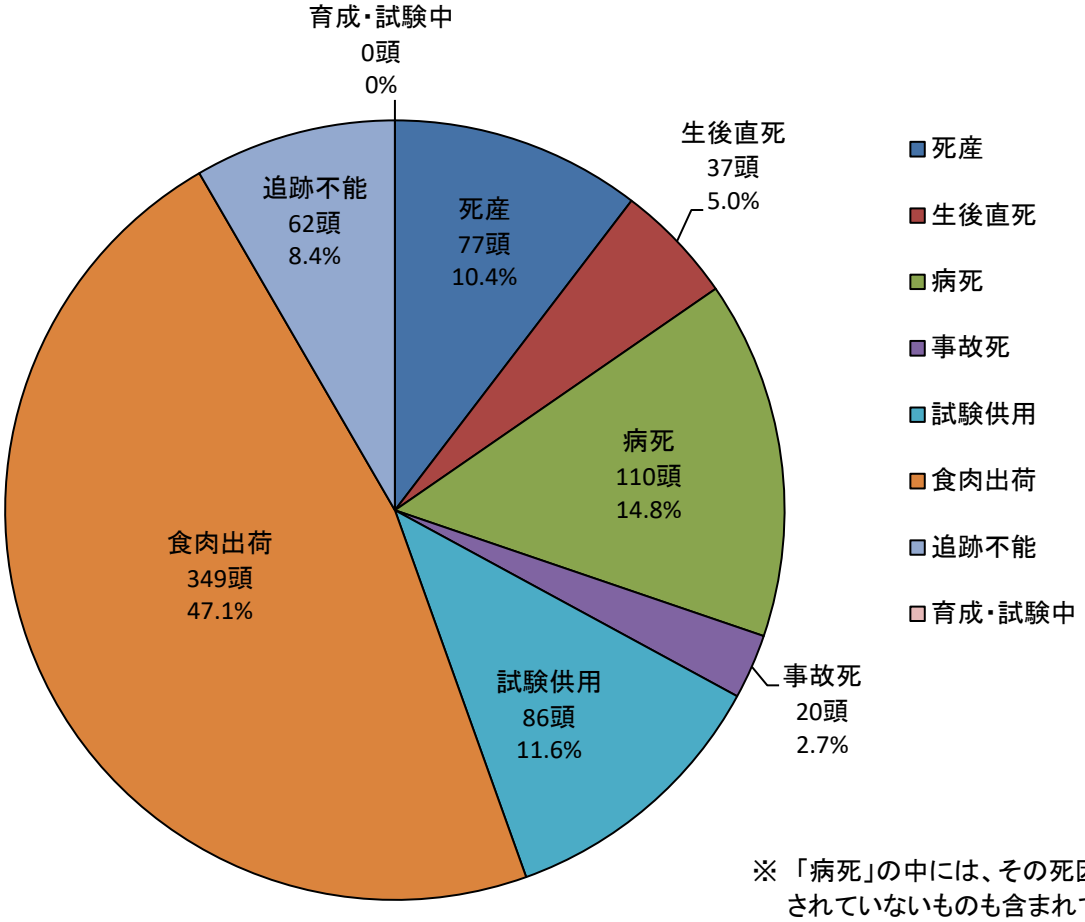
参考資料

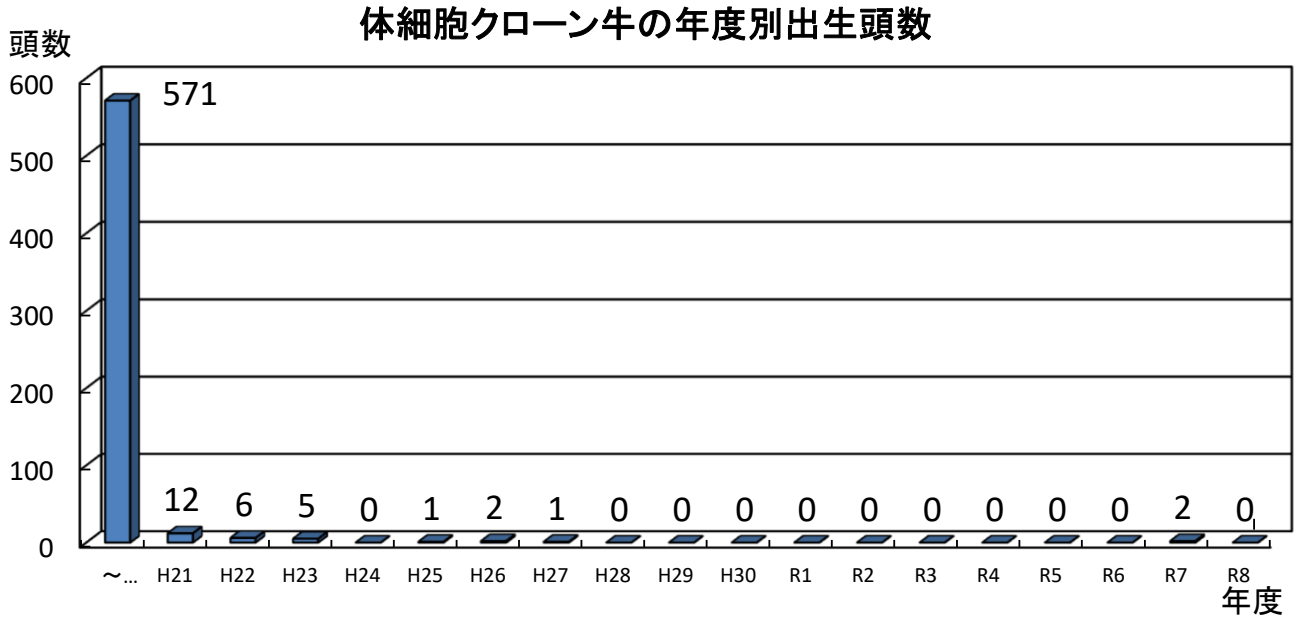
受精卵クローン牛の年度別出生頭数



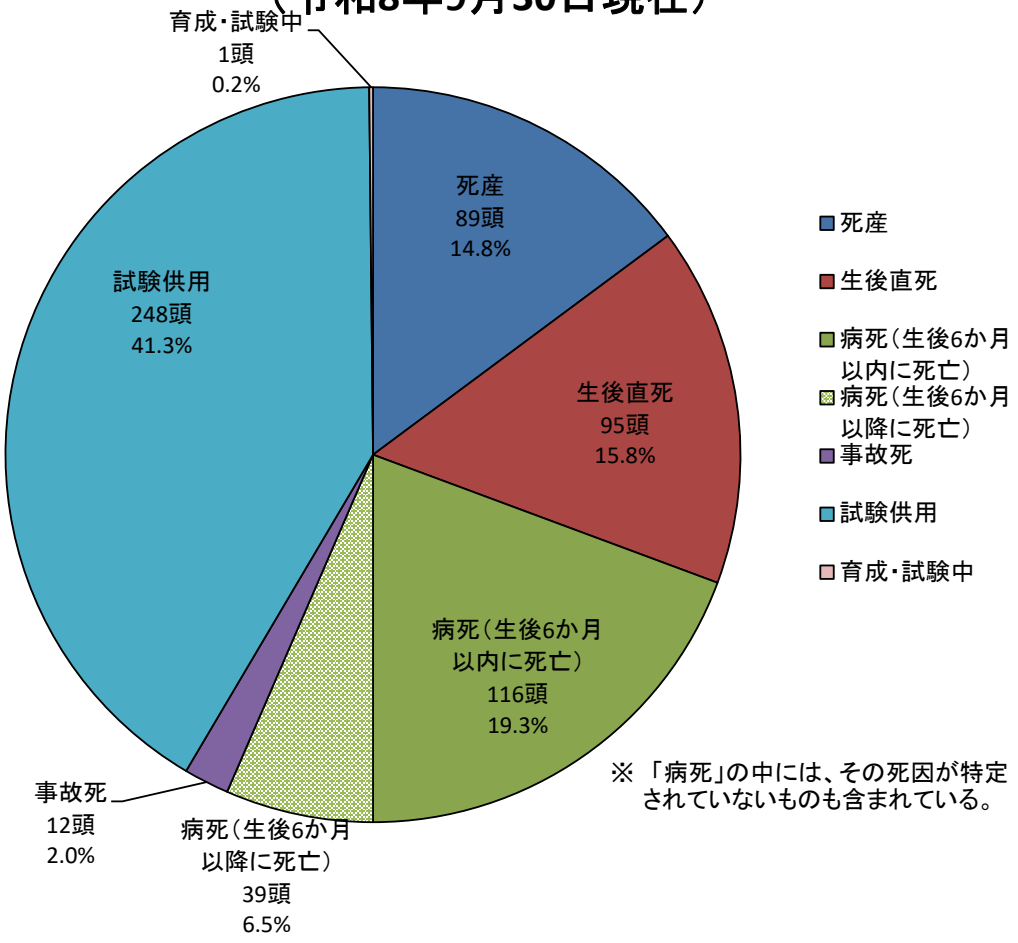
これまでに出生した受精卵クローン牛の状況
（令和8年9月30日現在）



※「病死」の中には、その死因が特定されていないものも含まれている。



これまでに出生した体細胞クローン牛の状況
（令和8年9月30日現在）



※「病死」の中には、その死因が特定されていないものも含まれている。

（参考資料の詳細）

１　受精卵クローン牛について

（注）１　品種内訳欄は、生産されたドナー受精卵の品種を表しており、黒は黒毛和種、ホルはホルスタイン種、交は交雑種、
　　アンはアンガス種、褐は褐毛和種、不は不明を表している。
　　２　「死産」は、胎齢２５０日以降に死亡して娩出されたものをいう。
　　３　「生後直死」は、生存して娩出後、概ね２４時間以内に死亡したものをいう。
　　４　「病死」の中には、その死因が特定されていないものも含まれている。
　　５　「試験供用」は、試験解剖されたり、試験研究終了に伴い処分されたりすることをいう。
　　６　「追跡不能」とは、平成11年の調査開始以前に出生し、試験研究機関等から農家等に譲渡され、調査時点において、その個体の確認が出来なかったものをいう。
　　７　「育成・試験中」は、実施機関が所有し育成や試験研究などに供されているものをいう（令和８年９月30日現在）。
　　８　備考欄の日付は、各実施機関において最初にクローン牛が出生した日を表している。

実　施　機　関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー受精卵の品種内訳	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況							備　考
				正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	食肉出荷	追跡不能	育成・試験中	
[国立研究開発法人] (研)農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門		20	黒　17 交　3	18	1	1	3		10		5		0	H 4. 4. 2
(研)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所									2				0	(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場から2頭譲受
(研)農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター		1	黒　1	1			1	1			5		0	H 6.11.12 雪印乳業(株)受精卵移植研究所から6頭購入
(研)家畜改良センター（本所）		54	黒　25 ホル　1 交　28	41	11	2	6		23		6	6	0	H 5. 4.22
(研)家畜改良センター（十勝牧場）		1	黒　1	1			1						0	H18. 4.18
(研)家畜改良センター（鳥取牧場）		5	黒　5	5							5		0	H11. 7.21
小　　計（６機関）	0	81	黒　49 ホル　1 交　31	66	12	3	11	1	35	0	21	6	0	

実施機関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー受精卵の品種内訳	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況							備考
				正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	食肉出荷	追跡不能	育成・試験中	
[都道府県] (地独)北海道立総合研究機構農業研究本部畜産試験場		85	黒 68 ホ 12 交 4 ア 1	77	5	3	23	1	13	7	33		0	H 6. 8.31 (独)農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所へ2頭、(社)ジェネティクス北海道へ5頭譲渡
(地独)青森県産業技術センター畜産研究所		19	黒 18 ホ 1	17	2		3	1	2		8	3	0	H 8. 3. 8
宮城県畜産試験場		27	黒 25 ホ 2	22		5	6	2			10	4	0	H 6. 1. 9
山形県農業総合研究センター畜産試験場		19	黒 14 ホ 5	14	5		2		2		9	1	0	H 9. 4.17
福島県農業総合センター畜産研究所		3	黒 3	3					1		2		0	H13. 9. 3
新潟県農業総合研究所畜産研究センター		2	交 2	2			1				1		0	H 9. 5.14
富山県農林水産総合技術センター畜産研究所		1	ホ 1			1							0	H12. 4. 4
石川県農林総合研究センター畜産試験場		4	黒 4	4			1				3		0	H10. 4.14
福井県畜産試験場		1	黒 1	1					1				0	H13. 4.11
栃木県畜産酪農研究センター		30	黒 13 ホ 11 交 6	25	5		4		1		6	14	0	H 4.12.20
群馬県畜産試験場		1	黒 1	1					1				0	H11. 7.29
千葉県畜産総合研究センター		9	黒 7 ホ 2	8		1		2	1		2	3	0	H 2. 8.20
山梨県酪農試験場		4	ホ 1 交 3	3	1						3		0	H11. 3. 2
長野県畜産試験場		5	黒 3 交 2	4	1						4		0	H12. 1.19
静岡県畜産技術研究所		1	交 1	1							1		0	H 8. 3.21
愛知県農業総合試験場		2	交 2	2							2		0	H 5. 9.16
岐阜県畜産研究所		7	黒 7	7			2				3	2	0	H 6. 2. 3
滋賀県畜産技術振興センター		3	黒 3	1	2		1						0	H14. 5.24

実施機関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー受精卵の品種内訳	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況							備考
				正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	食肉出荷	追跡不能	育成・試験中	
兵庫県立農林水産技術総合センター		2	黒 2	2							2		0	H11. 8.30
奈良県畜産技術センター		24	黒 24	20		4	2	2			16		0	H 5. 1.8
和歌山県農林水産総合技術センター畜産試験場		4	黒 4	3		1			1		2		0	2000/12/20
鳥取県畜産試験場		4	黒 3 不 1	4			1	1			2		0	H11. 1.28
島根県畜産技術センター		15	黒 15	10	4	1	2				8		0	H 8. 5.17
岡山県農林水産総合センター畜産研究所		8	黒 6 ホ 2	6	1	1			2		4		0	1998/10/16
広島県立総合技術研究所畜産技術センター		86	黒 86	71	12	3	4			26	41		0	H10. 3.25 ＪＡ全農ひろしま高宮実験牧場へ26頭譲渡
山口県農林総合技術センター畜産技術部		12	黒 12	12			1				11		0	H 9.11. 5
徳島県立農林水産総合技術支援センター		12	黒 6 ホ 4 交 2	9	1	2	1		4		4		0	H 8. 2.12
高知県畜産試験場		1	褐 1	1							1		0	H16. 9.25
長崎県農林技術開発センター		1	黒 1	1			1						0	H 9. 8.22
熊本県農業研究センター畜産研究所		9	褐 9	8	1		2	1	1		4		0	H 9. 5.14
大分県農林水産研究指導センター		6	黒 6	4	1	1	1				3		0	H 5.10.27
宮崎県畜産試験場		14	黒 14	14			1	1			12		0	H 6. 8.10
鹿児島県肉用牛改良研究所		20	黒 20	15	3	2		1	1	1	12		0	H 8. 3.15 (国)鹿児島大学へ1頭移動
小　計（３３機関）	0	441	黒 366 ホ 41 交 22 ｱﾝ 1 褐 10 不 1	372	44	25	59	12	31	34	209	27	0	

実施機関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー受精卵の品種内訳	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況							備考
				正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	食肉出荷	追跡不能	育成・試験中	
[民間企業等] 家畜受精卵移植技術研究組合 （平成27年3月31日付けで解散）		140	黒 100 ホ 33 交 7	124	11	5	18	2	10		65	29	0	
(株)小岩井農牧技術研究センター		65	黒 32 ホ 33	52	11	2	12	1	6		27	6	0	H 9. 5. 8
ＪＡ全農ＥＴ研究所		75	黒 68 交 7	72		3	6	1	4		38	23	0	H 2. 9.11
森永酪農販売(株)ミック事業部		63	黒 54 ホ 9	50	9	4	17	4	5		24		0	H 7.10. 4
ＪＡ全農ひろしま高宮実験牧場											26		0	広島県立総合技術研究所畜産技術センターから26頭譲受
(社)ジェネティクス北海道								1	2	2			0	(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場から5頭購入(うち2頭を酪農学園大学へ譲渡)
雪印乳業(株)受精卵移植研究所 （平成14年9月30日付けで閉所）		16	黒 14 ホ 1 交 1	15	1		5		1	6	3		0	H 4.12.22 (独)農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターへ6頭売却
酪農学園大学									2				0	(社)ジェネティクス北海道から2頭譲受
(国)鹿児島大学											1		0	鹿児島県肉用牛改良研究所から1頭移動
小　計（８機関）	0	219	黒 168 ホ 43 交 8	189	21	9	40	7	20	8	119	29	0	
合　計（４７機関）	0	741	黒 583 ホ 85 交 61 ｱﾝ 1 褐 10 不 1	627	77	37	110	20	86	42	349	62	0	

２　体細胞クローン牛について

（注）１　品種内訳欄は、ドナー細胞の品種を表しており、黒は黒毛和種、ホルはホルスタイン種、交は交雑種、ジャはジャージー種、
　　アンはアンガス種、褐は褐毛和種、未は未公表、不は不明を表している。
　　２　「出生頭数」の欄の（　）内の数値は、遺伝子組換体の頭数で内数である。

　　４　「生後直死」は、生存して娩出後、概ね２４時間以内に死亡したものをいう。
　　５　「病死」の中には、その死因が特定されていないものも含まれている。
　　６　「試験供用」は、試験解剖されたり、試験研究終了に伴い処分されたりすることをいう。
　　７　「育成・試験中」は、実施機関が所有し育成や試験研究などされているものをいう（令和８年９月30日現在）。
　　８　備考欄の日付は、各実施機関において最初にクローン牛が出生した日を表している。

実　施　機　関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー細胞の品種内訳	ドナー細胞の種類	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況					備　考
					正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	育成・試験中	
[国立研究開発法人] (研)農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門		39	黒　38 ホル　1	卵丘細胞 皮膚繊維芽細胞 胎子肺細胞 耳由来細胞	25	12	2	11	2	24	1	0	H11. 2.28 (独)家畜改良センター(本所)から1頭、奈良県畜産技術センターから1頭、鹿児島県肉用牛改良研究所から1頭、石川県畜産総合センターから8頭、岐阜県畜産研究所から1頭譲受、(独)農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターから1頭譲受、茨城県畜産センターへ1頭譲渡
(研)農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター		2	黒　2	卵丘細胞	1		1				1	0	H22. 9. 6 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所へ1頭譲渡
(研)家畜改良センター（本所）		48	黒　21 ホル　21 ジャ　6	卵管上皮細胞 耳上皮細胞 乳腺細胞 線維芽細胞 卵丘細胞 栄養膜細胞	29	11	8	19		9	1	0	H10.11. 4 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所へ1頭譲渡
(研)家畜改良センター（十勝牧場）		103	黒　100 アン　3	卵丘細胞 耳細胞	86	1	16	32	2	52		0	H12. 3. 1
小　　計（４機関）	0	192	黒　161 ホル　22 ジャ　6 アン　3		141	24	27	62	4	85	3	0	

実施機関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー細胞の品種内訳	ドナー細胞の種類	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況					備考
					正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	育成・試験中	
[都道府県] (地独)北海道立総合研究機構農業研究本部畜産試験場		35	黒 34 ホ 1	子宮上皮由来細胞 筋肉、皮膚由来細胞 繊維芽細胞	24	5	6	10	2	12		0	H11. 2. 1
(地独)青森県産業技術センター畜産研究所		3	黒 1 ホ 2	子宮上皮細胞 耳細胞	1		2	1				0	H11. 8.18
岩手県農業研究センター畜産研究所		11	黒 10 交 1	線維芽細胞	10		1	4		5	1	0	H13. 3.15 (国)東北大学へ1頭譲渡
宮城県畜産試験場		16	黒 16	胎子由来細胞 卵丘細胞、耳翼細胞	10	1	5	4		5	1	0	H11. 1.27 (国)東北大学へ1頭譲渡
山形県農業総合研究センター畜産試験場		3	黒 3	胚由来培養細胞	1	1	1	1				0	H15. 1.27
福島県農業総合センター畜産研究所		3	黒 3	耳皮膚細胞	2	1				2		0	H12. 7.19
富山県農林水産総合技術センター畜産研究所		7	黒 3 ホ 4	胎子肺由来細胞 卵丘由来細胞	3	2	2	2		1		0	H10. 9.23
石川県農林総合研究センター畜産試験場		29	黒 18 ホ 2 未 9	卵丘細胞 筋肉由来細胞 卵管上皮細胞 胎子線維芽細胞	17	2	10	3		6	8	0	H10. 7. 5 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所へ8頭譲渡
福井県畜産試験場		1	未 1	成牛体細胞	1			1				0	H11. 4.13
茨城県畜産センター		7	黒 7	卵丘細胞 耳由来細胞	6	1		4	1	2		0	H13. 1.24 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所から1頭譲受
栃木県畜産酪農研究センター		6	黒 4 ホ 2	成牛皮膚細胞 卵丘細胞、子牛皮膚細胞	6			1	1	4		0	H10. 9.16
東京都農林総合研究センター		4	ホ 4	卵丘細胞	4			2		2		0	H13. 3. 6
神奈川県農業技術センター畜産技術所		2	黒 2	卵管由来細胞	2			1		1		0	2001/10/10
山梨県酪農試験場		9		子牛臍帯由来細胞 成牛皮膚由来細胞	7	1	1	2		5		0	H11. 7. 8
静岡県畜産技術研究所		1	黒 1	皮膚細胞	1					1		0	H14. 3.25
愛知県農業総合試験場		10	黒 4 ホ 4 未 2	卵丘細胞 成牛体細胞	4	3	3	2		2		0	H10.12. 3
岐阜県畜産研究所		10	黒 10	卵丘細胞,耳由来線維芽細胞,卵管上皮細胞 子宮由来細胞 精巣由来細胞	9		1	4		1	4	0	H12. 3.14 近畿大学へ3頭移動 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所へ1頭譲渡
三重県畜産研究所		11	黒 5 不 6	卵丘細胞	11			4		7		0	1999/10/31

実施機関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー細胞の品種内訳	ドナー細胞の種類	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況					備考
					正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	育成・試験中	
滋賀県畜産技術振興センター		1	黒 1	耳上皮細胞	1					1		0	H18. 3.14
兵庫県立農林水産技術総合センター		8	黒 8	卵丘細胞 耳線維芽細胞	6	2		1		5		0	H13. 8.14 試験供用の5頭のうち4頭は兵庫県立播磨農業高等学校で教材用として利用
奈良県畜産技術センター		4	黒 2 ホ 2	耳細胞、体内胚 胎子皮膚細胞	1		3				1	0	1998/11/17 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所へ1頭譲渡
和歌山県農林水産総合技術センター畜産試験場		1	黒 1	耳細胞	1					1		0	H13. 2.15
鳥取県畜産試験場		1	黒 1	皮膚細胞	1					1		0	H12. 4.24
島根県畜産技術センター		6	黒 5 ホ 1	卵丘細胞 皮膚線維芽細胞	5	1		1	1	3		0	H12. 7.20
岡山県農林水産総合センター畜産研究所		3	黒 1 ホ 2	胎子由来細胞 皮膚細胞	2	1		1		1		0	H12. 3. 6
山口県農林総合技術センター畜産技術部		1	黒 1	耳皮膚細胞	1					1		0	H11. 4.15
徳島県立農林水産総合技術支援センター		12	黒 1 ホ 11	線維芽細胞 卵丘細胞	7	3	2			7		0	H11. 1.26
長崎県農林技術開発センター		11	黒 11	卵丘細胞 耳皮膚、皮膚細胞	5	4	2	4		1		0	H12. 5.25
熊本県農業研究センター畜産研究所		18	褐 6 未 12	耳細胞 成牛体細胞	10	5	3	3		7		0	H11. 1.22
大分県農林水産研究指導センター		28	黒 27 ホ 1	筋肉組織由来細胞	19	6	3	7		10	2	0	H10. 8.20 (国)九州大学へ2頭移動
宮崎県畜産試験場		17	黒 17	胎子由来細胞、頬細胞 耳皮膚細胞、肺細胞 卵丘細胞	9	4	4	6		3		0	H11. 5.20
鹿児島県肉用牛改良研究所		51	黒 42 ホ 8 交 1	耳由来線維芽細胞	30	9	12	8	2	19	1	0	H10. 7.24 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所へ1頭譲渡
沖縄県畜産研究センター		7	黒 7	耳由来線維芽細胞	6		1	3		3		0	H14. 6. 5
小　計（３３機関）	0	337	黒 246 ホ 44 交 2 褐 6 未 24 不 6		223	52	62	80	7	119	18	0	

実施機関	受胎中のクローン牛の頭数	出生頭数(累計)	ドナー細胞の品種内訳	ドナー細胞の種類	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況					備考
					正常娩出	死産	生後直死	病死	事故死	試験供用	他機関へ譲渡	育成・試験中	
[民間企業等] 家畜受精卵移植技術研究組合		46	黒 40 ホル 6		35	8	3	7	1	24	4	0	
(社)家畜改良事業団家畜ﾊﾞｲﾃｸｾﾝﾀｰ		1	黒 1	耳由来細胞	1					2		0	H11. 2.24 森永酪農販売(株)ミック事業部から1頭譲受
(株)小岩井農牧技術研究センター		7	黒 4 ホル 3	筋肉細胞 耳由来細胞	5	1	1	2		3		0	H11. 5.31
ＪＡ全農ＥＴ研究所		38 (4)	黒 35 ホル 3	胎子細胞 耳介細胞	29	7	2	5	1	19	4	0	H12. 1. 7 (国)東京大学へ2頭譲渡 全農飼料畜産中央研究所へ2頭移動
森永酪農販売(株)ミック事業部		7	黒 7	耳由来細胞 皮膚由来細胞	5	1	1	3			2	0	H11. 4.11 (社)家畜改良事業団へ1頭、(国)岩手大学へ1頭譲渡
全農飼料畜産中央研究所										2		0	全農ＥＴセンターから2頭移動
雪印乳業(株)受精卵移植研究所 （平成14年9月30日付けで閉所）		9	黒 4 ホル 5	線維芽細胞 乳腺上皮細胞	6	2	1	1			5	0	H11. 1. 3 酪農学園大学へ4頭、(国)北海道大学へ1頭譲渡
酪農学園大学										4		0	雪印乳業(株)受精卵移植研究所から4頭譲受
(国)北海道大学										1		0	雪印乳業(株)受精卵移植研究所から1頭譲受
(国)岩手大学										1		0	森永酪農販売(株)ミック事業部から1頭譲受
(国)東北大学										2		0	岩手県農業研究センター畜産研究所から1頭、宮城県畜産試験場から1頭譲受
(国)東京大学		5 (3)	黒 5	胎子細胞	3	2		1		4		0	ＪＡ全農ＥＴ研究所から2頭譲受
近畿大学		2 (1)	黒 2	羊水由来細胞	2			1		4			H20. 8.17 岐阜県畜産研究所から3頭譲受
(国)高知大学		2	褐 2	耳由来細胞	1		1					1	R7. 7.23
(国)九州大学										2		0	大分県農林水産研究センター畜産試験場から2頭移動
小　計（１４機関）	0	71 (8)	黒 58 ホル 11 褐 2		52	13	6	13	1	44	11	1	
合　計（５１機関）	0	600 (8)	黒 465 ホル 77 交 2 ｼﾞｬ 6 ｱﾝ 3 褐 8 未 24 不 6		416	89	95	155	12	248	32	1	

３　体細胞クローン豚（ミニブタを除く）について

（注）１　品種内訳欄は、ドナー細胞の品種を表しており、梅は梅山豚、ラはランドレース、金は金華豚、デはデュロック、
　　交は交雑種、未は未公表を表している。
　　２　「出生頭数」の欄の（　）内の数値は、遺伝子組換体の頭数で内数である。
　　３　「生後直死」は、生存して娩出後、概ね２４時間以内に死亡したものをいう。
　　４　「試験供用」は、試験解剖されたり、試験研究終了に伴い処分されたりすることをいう。
　　５　「育成・試験中」は、実施機関が所有し育成や試験研究などに供されているものをいう（令和８年９月30日現在）。
　　６　備考欄の日付は、各実施機関において最初にクローン豚が出生した日を表している。

実施機関	受胎中のクローン豚の頭数	出生頭数(累計)	ドナー細胞の品種内訳	ドナー細胞の種類	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況					備考
					正常娩出	死産	生後直死	死亡				育成・試験中	
								病死	事故死	試験供用	死因不明		
[国立研究開発法人]													
(研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門		227 (210)	梅　9 ラ　12 交　206	胎児、卵管 筋肉、耳細胞	158	45	24	7	11	71	68	1	H12. 7. 2
(研)農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター		17	交　17	前駆脂肪繊維芽細胞	8	5	4			5	3	0	H19. 2.11
[都道府県]													
茨城県畜産センター		6	ラ　6	耳由来繊維芽細胞	4		2	1		3		0	2004/10/30
静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター		33 (4)	金　19 デ　2 交　12	耳、皮膚、卵管 GFP：皮膚・胎盤 耳皮膚 胎子細胞	23	8	2	6	5	4	8	0	H14. 5.16
鳥取県農林総合研究所中小家畜試験場		11 （不明）	ラ　11	心臓由来細胞	8	3				8		0	H13. 9. 6
[民間企業等]													
近畿大学		16 （不明）	ラ　7 未　9	生体腎臓細胞 生体幹細胞	9	7				9		0	H15. 9.12
明治大学		538 (197)	交　538	胎仔繊維芽細胞 胎仔由来繊維芽細胞 唾液腺由来幹細胞 唾液腺幹細胞 前駆脂肪細胞 腎臓由来繊維芽細胞	374	109	55	20	15	218	121	0	H15. 3.30
全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室		64 (60)	デ　64	胎子細胞	15	10	39	2		10	3	0	H20. 4. 9
伊藤忠飼料株式会社		38	ラ　38	耳由来繊維芽細胞	33	4	1	8	1	24		0	H26. 7.27
合　計（９機関）	0	950 (471)	梅　9 ラ　74 金　19 デ　66 交　773 未　9		632	191	127	44	32	352	203	1	

４　体細胞クローン山羊について

（注）１　品種内訳欄は、ドナー細胞の品種を表しており、シバはシバヤギを表している。
　　２　「出生頭数」の欄の（　）内の数値は、遺伝子組換体の頭数で内数である。
　　３　「生後直死」は、生存して娩出後、概ね２４時間以内に死亡したものをいう。
　　４　「試験供用」は、試験解剖されたり、試験研究終了に伴い処分されたりすることをいう。
　　５　「育成・試験中」は、実施機関が所有し育成や試験研究などに供されているものをいう（令和８年９月30日現在）。
　　６　備考欄の日付は、各実施機関において最初にクローン山羊が出生した日を表している。

実施機関	受胎中のクローン山羊の頭数	出生頭数（累計）	ドナー細胞の品種内訳	ドナー細胞の種類	作出時の状況			正常娩出個体の作出後の状況					備考
					正常娩出	死産	生後直死	死亡				育成・試験中	
								病死	事故死	試験供用	その他		
[国立研究開発法人] （研）農業生物資源研究所	0	9 (5)	ｼﾊﾞ　9	下垂体前葉細胞 卵丘細胞 胎子期繊維芽細胞	5	1	3	1			4	0	H12. 8. 8

５　個体識別番号について

（注）１　「個体識別番号」は、「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」（平成15年法律第72号）（牛トレサ法）第2条に規定される牛の個体を識別するために牛ごとに定める番号をいう。

２　出生した体細胞クローン牛、受精卵クローン牛のうち、令和８年９月30日現在で実施機関が所有し育成や試験研究などに供されている体細胞クローン牛、受精卵クローン牛及び令和８年10月1日以降に食肉出荷された受精卵クローン牛について掲載している。

【体細胞クローン牛】

No.	飼養場所	個体識別番号
1	(国)高知大学	1689290928

【受精卵クローン牛】

No.	飼養場所	個体識別番号

令和8年3月31日現在、国内で育成や試験研究などに供されている受精卵クローン牛はいません。

（別紙参考）

１　後代家畜について

（注）１　「世代」のF1は、母、父のいずれか又は両方が体細胞クローン家畜からの産子をいう。
２　「世代」のF2以降は、体細胞クローン家畜のF1以降からの産子をいう。
３　「これまでの出生頭数」は、現在クローン家畜の研究を行っている実施機関からの報告の集計値であり、過去にクローン家畜の研究を実施しており、かつ、現在は後代家畜を飼養していない実施機関の数値は含まない。
４　「これまでの出生頭数」及び「飼養頭数」の欄の（　）内の数値は、遺伝子組換体の頭数で内数である。

（１）体細胞クローン牛について

実施機関	世代	これまでの出生頭数	飼養頭数 (R8.9.30現在)	備　考
[国立研究開発法人] (研)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所	F1	15	0	
	F2以降	3	0	
(研)家畜改良センター（本所）	F1	70	0	
	F2以降	10	0	
[都道府県] 宮城県畜産試験場	F1	3	0	
富山県農林水産総合技術センター畜産研究所	F1	1	0	
石川県農林総合研究センター 畜産試験場	F1	5	0	
福井県畜産試験場	F1	1	0	
茨城県畜産センター	F1	2	0	
静岡県畜産技術研究所	F1	2	0	
	F2以降	1	0	

実施機関	世代	これまでの出生頭数	飼養頭数 (R8.9.30現在)	備　　考
滋賀県畜産技術振興センター	F1	1	0	
	F2以降	1	0	
長崎県農林技術開発センター	F1	1	0	
熊本県農業研究センター畜産研究所	F1	13	0	
	F2以降	2	0	
鹿児島県肉用牛改良研究所	F1	31	0	
	F2以降	5	0	
[民間企業等] ＪＡ全農ＥＴ研究所	F1	5	0	
合　　計　（１３機関）	F1	150	0	
	F2以降	22	0	

（２）体細胞クローン豚について

実施機関	世代	これまでの出生頭数	飼養頭数 （R8.9.30現在）	備　　考
[国立研究開発法人] (研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門	F1 (　　) F2以降 (　　)	209 (118) 1434 (1369)	0 (0) 92 (92)	
[県] 茨城県畜産センター	F1 F2以降	21 19	0 0	
静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター	F1 (　　) F2以降 (　　)	201 (56) 402 (356)	0 (0) 2 (2)	
[その他] 明治大学	F1 (　　) F2以降 (　　)	148 (71) 152 (75)	0 (0) 0 (0)	
全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室	F1 (　　) F2以降 (　　)	50 (23) 63 (41)	0 (0) 0 (0)	
合　　計　（５機関）	F1 F2以降 (　　)	2699 (2109)	94 (94)	

（３）体細胞クローン山羊について

実施機関	世代	これまでの出生頭数	飼養頭数 （R8.9.30現在）	備　　考
[国立研究開発法人] (研)農業生物資源研究所	F1 F2以降	8 (6) 1 (1)	0 (0) 0 (0)	
合　　計　（１機関）	F1 F2以降	8 (6) 1 (1)	0 (0) 0 (0)	